

# 世界革命戦線

## 3 宣 言

3 7・20日航機H・J爆破斗争貫徹勝利！  
更なる地下兵站線の構築によつて進撃せよ

(世界革命戦線情報センター)

パリ共同声明

(日本赤軍)

(S O L O)

日本の戦士へ呼びかける

(アラブ赤軍)

10・21集会へのアピール

(P F L P 国際局)

17 11・2 シオンスト・イスラエル打倒！ バルフォア宣言糾弾！  
パレスチナ革命集会報告

(世界革命戦線情報センター)

アラブ赤軍よりのアピール

P F L P 国際局よりのアピール

P F L P 日本人医療隊よりのアピール

21 パレスチナ革命連帯共斗会議へのテーゼ

(世界革命戦線情報センター)

28 パレスチナ革命の現状闇・革命の任務

ジョルジュ・ハバシ

31 7・20日航機H・J爆破、11・24 E L M 機H・J遊撃戦万才！

(世界革命戦線情報センター)

## 地下兵站線の構築強化を！

Vol. 5

'73. 12. 12

# 宣

## 言

一、「我々はいかにプロバガンダを行つてゐるか。この五年間で実に単純な教訓を得た。プロバガンダは即情報であり、情報は真実を伝えることである。

しかも、我々の真実の、最高の形態は武装闘争である。従つて、武装闘争こそがプロバガンダの最良の形態だと信じている」

これは、先の白色テロで斃れたPFLP中央政治局員 ガッサン＝カナファーニ同志のメッセージである。我々は、これをプロバガンダ戦略の、我々の戦略戦術の根幹とする。

一、我々の戦略戦術は、我々の真実である情報のパッケージ矮小化、情報の捏造報道を敵とみなす。

したがつて、我々は、我々の真実の追求＝情報の生産化、すなわち、情報の創造を第一の任務とする。

一、我々は、既に、我々の真実、情報の生産化の現実過程による我々の主体を確認している。そして、我々が今急務とするのは、その情報の交通形態の創出であり、我々の交通網による真実の創造である。

一、我々の真実の創造とは、近代資本主義日本帝国の住民たる我々が日本帝国主義－アジア植民地主義－世界帝国主義との同時的闘いを、日本プロレタリア階級として、ペトナム・インドシナ人民、インド亜大陸人民、アラブ・ペルシナ人民、アフリカ被植民地人民、南北アメリカ被抑圧人民の闘いと連帯し、アメリカ帝国主義を筆頭とする世界帝国主義打倒・民族解放－国際共産主義運動の現実過程を先鋭的に創出することである。

したがつて、我々は、世界赤軍構築に向けた世界統一革命戦線の体現による、世界同時革命をめざし、国際共産主義運動を領導することを任務とする。

いづれにしても、武装した日本人民大衆の解放闘争を全ての基本とする。

一、我々は、世界革命戦線（International Revolution-Front）情報センターである。

## 7・20日 航機H・J爆破闘争貫徹勝利！ 更なる地下兵站線の構築によつて進撃せよ

世界革命戦線情報センター

全ての兵士友人諸君へ！

世界革命戦線情報センターは、七月二〇日、日本赤軍、SOL（被占領地域の息子達）の共同軍事行動作戦として闘われた日本航機H・J爆破闘争を、その政治目的、組織性、計画性、革命的モラルにおいて断固として支持することを表明します。

昨年の五・三〇テルアビブ銃撃戦＝ディル・ヤシン作戦同様、帝国主義ブルジョアジー、シオニスト、反動共は、その手中にあるプロバガンダ機構をフル動員しH・J闘争及び世界の闘う人民の真実を陰鬱、歪曲し徹底した報道管制のもとで、H・J闘争をブルジョア・ヒューマニズムの問題と犯人割り出しへとその焦点を移行させ、『乗客の生命が云々』『狂気のサタである』と言つたような反テロ・キャンペーンを繰返している。

そしてまた、それに同一歩調をとるように、PLO右派指導部も國境を越えたグリラ戦士人民の、世界帝国主義、シオニスト、反動諸勢力に対する非妥協的闘いに水をさすように、今回の闘争を「C・I・Aと帝国主義者の陰謀である」とか、「バレスチナ解放の闘いとは無関係である」といったような表現で非難し、まさに帝国主義者、シオニスト共を左から補完しているといった存

在になり下つてきている。しかし、バレスチナ解放闘争は、五月のレバノン内戦等を見ても明らかになつたように、「民族主義」に基づいた闘いの質からバレスチナ人民とレバノン人民の戦線における結合を軸としたレバノン革命、階級闘争としてのバレスチナ・アラブ革命の質を展開し始めおり、シオニスト・イスラエルが世界シオニスト機関、帝国主義諸国家からの援助、後楯によって中東領域における手先として存在している限り、アラブ・バレスチナ人民の解放闘争はシオニスト・イスラエル打倒の闘いを必然的に帝国主義打倒の闘いへと前進させなければならないことは明らかである。そして、更にシオニスト、帝国主義者共との熾烈な闘いを展開しているバレスチナ解放勢力に対して妥協と共存を計る一方で、バレスチナ解放の闘いを裏切り弾圧を押し進めてくるアラブの反動諸勢力との結託を強めている修正主義者たち、解放勢力内「民族主義」右派分子との非妥協的闘いもまた貫徹していかなければならぬ段階にいたつていてることも明白な事実である。

七・二〇日航機H・J爆破闘争は、全世界の被抑圧人民、諸革命戦線隊員へ向けた非妥協の武装闘争によって革命的人民が語る真実の闘争アピールをもつて貫徹された帝国主義・シオニスト・

イスラエル・アラブ反動派、そしてなによりもシオニスト・イスラエルとの裏取引・結託を強めつゝ、中東に於ける侵略反革命策動に狂奔する日本帝国主義に対する闘いの開始であり、その具体的な獲得目標は、アラブ赤軍重信同志のTVインタビュー、パリに於いて我々の同志が明らかにした日本赤軍とS O L O の共同声明、またアラブ赤軍よりの「7・24宣言」「日本の戦士へ呼びかける」等によつても確認されるように、日本の獄中で不屈に闘い抜いてる革命兵士の奪還、そして帝国主義者によつて搾取された人民の労働の代価、そのほんの一部を帝国主義者の手から人民の側へ取り返すというバレスチナ人民と日本人民の権利を主張する闘争として闘われたのである。

我々は今回の闘争を一般的に支持するにとどまらず、その切り拓いた地平を保証し発展させるためには次の如く確認する必要があると考える。まず第一には、日本とバレスチナの革命を結合——共存化する闘い、世界革命戦争としてバレスチナ革命・日本革命を同時・同質に闘い抜く必要性と可能性を体現した。第二に、日本赤軍とS O L O による極めて緻密に組織された共同軍事行動として、国際武装革命派の国境を越えた人民の軍隊!!世界革命戦線の創出へ向けた五・三〇テルアビブ銃撃戦が獲得した質を更に強固な各国武装革命派の結合の中に継承発展させ、全世界を戦場化する闘いとして実体化した。つまり、七・二〇H・J爆破闘争が実体化した革命戦争は世界の革命勢力の相互認識の一体化を推し進め、武装闘争の表現によつて闘う兵士・人民の交通網・交通形態を獲得するという真の共産主義の闘いを國際地下兵站線構築の実践を通して、最前線——銃後、銃後——最前線の世界的結合の同質化を勝ち取ることによつてゐる。

きずり込むにいたつてゐる。

我々は、以上のような確認に基づき七・二〇日航機H・J爆破闘争を単に支持表明だけに終わらせることなく、闘いの質を自らに引き受け、更に強固な世界革命戦線の組織化を勝ち取つていく決意である。

今回の闘争でも明らかにされたように、日本帝国主義は、昨年のテルアビブ銃撃戦以降シオニスト・イスラエルに対し多額の賠償金を支払い、謝罪使節団を送るなど結託を強め、バレスチナ人民に敵対して来た。日帝が言う「日本は中東問題に關しては中立である」云々といった態度が、眞赤なウソであることはバレスチナ人民はおろか全世界の被抑圧人民が一番よく知つてゐる。それは、"世界的エネルギー危機"といふ中にあって、帝国主義重化学工業の延命の鍵である"石油"が欲しい日帝が、その利害をめぐつて中東に対する侵略（経済的進出）反革命政策（バレスチナ解放・反帝・反シオニズム・反アラブ反動派の闘いに対して諸帝国主義と"イスラエル"との結託）を強化するための二枚舌の虚構でしかない。我々は、バレスチナ人民とともに今春の中曾根通相中東歴訪による石油利権の確保策謀、中東諸国大使会議によるエセ"中立"主義の徹底化、そして今回のH・J闘争後の謝礼使節団派遣など、全て日本帝国主義が方針化した新植民地政策の一貫としてあつたものとして断固糾弾してゆかなければならぬ。

我々は、このようないたつてゐる。日本帝国主義に対する闘争を行つて、闘うバレスチナ人民そして全世界人民の革命の真実をプロバガンダし抜き、世界の武装革命派との緊密なる交通情報網の構築を勝ち取り、相互の理論、物資、兵士の交流をうなが

て、現代過渡期世界の革命戦争の指向性を指し示し得たのである。とりわけ、日本新左翼諸党派が陥り入つてゐる一国主義と合法主義の枠を大きく突破するものとして、日本階級闘争において決定的に欠落している非公然→公然、非合法→合法闘争の質を日本の革命派総体の現実に対し自らの実践をもつてつきつけたものとしてある。第三には、バレスチナと日本の両地点に於いて、極めて大胆なH・J闘争と完全なる非公然闘争が同時的に軍事展開されたことを認める。H・J闘争の勝利的貫徹で認識し、更に進撃するへ共同軍事行動の地平を、全世界の革命戦争派が闘つてゐる非妥協性と同質のものとして高く評価しなければならない。第四に、アラブ赤軍が自ら語つてゐるようH・J戦士のモラルと闘争主体のモラルの革命性がある。つまり、「武装闘争を勇敢に闘い抜いた結果として長期獄中にあり、完黙で闘い抜いてゐるあらゆる個人に対し、我々は必ず奪還することによってその戦士の名譽を回復する」という、日本革命運動史上初めてとも言える政治犯の実力奪還を要求する革命的モラルの重要さである。日本帝国主義ブルジョアジー共は、自らの手で逮捕拘留している革命戦士が奪還されることによって引き起こされるであろう彼らの威信の低価、ブルジョアジーとブルジョアジーの階級攻防の質的变化に恐れをなし、要求書の存在をあやふやにして実行不可能な要求であるというようなデマゴギーを流し続け、H・J闘争の矮少化を計つたにもかかわらず、日航、日本政府につづけられた「要求書」の真実は、日本帝国主義特有の狡猾な政策による「バレスチナ問題」（本質的にはバレスチナ問題などブルジョアックに限定された問題でないことは明らかであるが）に対する反革命性をハッキリと暴露し抜き、日帝を世界革命戦争の戦場に引いた傾向を指摘しなければならない。

第一には、闘争の内実が明らかになるにつれ、闘いの支持、積極的擁護を始めつつあるが、闘いの最もにあつて敵のデマ、誹謗中傷等の逆プロバガンダによる一大キャンペーンが張られ闘いの矮少化が計られ、闘う人民の側からの反撃が最も必要とされている時に、

最後に我々は、七・二〇日航機H・J爆破闘争評価についての誤解目的を更に明確に組織することから連帯を共闘へ生産してゆかなければならぬのである。闘争の一戦術あるいは特定の闘争組織主體による戦術展開は、何かしら権威主義的な公式機関による評価がなければ自らの政治表明を行えないなどといふ没主體的、没階級的諸君を"反革命"と規定することから百歩退いたとしても、我々は

批評し続けなければならない。我々は闘争を貫徹する組織の主體性、階級性が明確であり、政治目的としての敵の指定が正しい限り断固として敵と同志をみきわめ、闘争の正しさを支持し積極的に擁護する革命政治の徹底を計らなければならない。革命運動内にブルジョア政治を持ち込むことによつて策動する諸君に対しては、あらゆる妥協を廃した闘いを、我々は以後展開するであらう。例えば、バレスチナ革命連帶運動の展開を、自らを大衆運動機関として規定する

ことにより、日本に於けるパレスチナ革命連帶運動の全てを合法的枠内に陥し込めようとする傾向については、断固粉碎し抜くつもりである。

第二には、七・二〇日航機H・J爆破闘争のもつ一般性と特殊性を、H・J闘争一般の評価の中に解消してしまう傾向である。その第一には、「日本赤軍」と「S O L O」の共同軍事行動主体に関する、「日本赤軍」あるいは「S O L O」という闘争主体の実在性に疑惑を差しはさむ傾向があるが、「日本赤軍」とは明らかに日本に確として存在する闘争主体が名乗った名称であり、「S O L O」もまたかりである。我々は、全ての武装革命派が「赤軍」という革命主体に冠せられる名称を使うべきだとさえ考える。我々のいう赤軍とは、ロシア革命時のレーニンとトロツキーによつて指導されたロシア赤軍のその理念を正しく継承すべき革命の軍隊であり、世界革命の貫徹に向けた国境を越えた革命の軍隊・人民の軍隊である。例えればそれは、一人、共産同赤軍派の諸君を意味するのでは決してない。むしろ非公然→公然の武装闘争過程で、国境を越えた革命の軍隊・人民の軍隊として公然と登場して来るであろう全ての「日本赤軍」を、我々は断固支持する。

その第二には、七・二〇H・J爆破闘争がパレスチナ人民の革命闘争と遊離した闘いであったという観測を通りこして憶測的な立場の主体が持つ傾向である。七・二〇日航機H・J爆破闘争は、昨年の五・三〇テルアビブ・リッダ空港銃撃戦と同様、難民キャンプを初めとしてあらゆるパレスチナ人民から支持を得て熱況的に歓迎されていることは、P F L P日本人医療隊の同志からの報告及びアビールにも明らかにされているし、それ以上の解説は蛇足である。

エセモラルを断固として粉碎する。我々のモラルとは、共産主義者としての、兵士としてのモラルだからである。

七・二〇日航機H・J爆破闘争は、国境を越えた革命の軍隊・人民の軍隊→世界革命戦線の創出へ向けた目的意識的闘争であり、五・三〇テルアビブ・リッダ空港銃撃戦と同質の偉大な闘いである

## 7・20 日航機H・J爆破闘争「声明」

日本赤軍

S O L O (被占領地域の息子組織)

一九七三年八月十日、I・R・F(世界革命戦線)情報センターの一員に、七・二〇日航機H・J爆破闘争を展開した闘争主体から発表を依頼された「声明」が、以下の全文である。革命的闘争に関する情報||交通の全てを、ICPO—イスラエル秘密警察—一日

本官権のコードの中で操作、検閲されて来たブルジョアマスコミは、日航機H・J爆破闘争でも全く「政府情報」及び「警察情報」のみを事実と信じて、人民の側の真実についての追求を百パーセント放棄していた。我々I R F情報センターは、その腐敗しきったブルジョアマスコミの誤謬を訂すため、合法戦術の弊害もかえりみず、全世界の革命的人民に向けた闘争主体の「声明」をひろく公表して來た。

何が革命の事実であり、何が闘争の真実であるかを、この「声明」

ことを確信している。

☆七・二〇日航機H・J爆破闘争万才

☆七・二〇日航機H・J爆破闘争の地平を、世界革命戦線の更なる

実体化・進撃へと断固組織化を勝ちとれ！

我々、日本赤軍と被占領地の息子組織は、次の如く宣言する。  
日航機H・J爆破闘争は、戦闘的・非妥協的・持久的に闘い抜かれた、と。この闘いは、帝国主義者とシオニストどもを震え上らせた、と。共同の敵に向け、固く団結した全世界の被抑圧人民は、その異った民族性を物理的に数千キロに及んでへだてられているが故に直面している困難を克服しつつある、と。

世界帝国主義とシオニズムは、全世界の被抑圧人民の国際的な闘

その第三の傾向は、五・三〇テルアビブ銃撃戦そして七・二〇日航機H・J爆破闘争のもつプロレタリア国際主義の内実を、国際主義活動としてしか位置づけえない傾向である。我々がこの間主張してきたプロレタリア国際主義の質とその内実とは、確かに義勇軍派兵という実体化をも含むものである。しかし、プロレタリア国際主義の義勇軍活動は決して散發的な義勇軍交換||軍事契約主義としてあるのではなく、明確に前線と後方・後方と前線との相互連関關係として実体化を勝ちとるべく組織される人民の赤色シルクロード||国際地下兵站線の創出と工作する任務を基底として実践活動するのであり、その義勇軍活動こそが、眞のプロレタリア国際主義の旗のもとに一層の拡大強化されることが世界革命戦略の第一歩として問われているのである。

七・二〇H・J爆破闘争主体とその政治目的はそのように、パレスチナ人民をはじめとする世界の革命的人民が行つてきたH・J闘争の質を更に強化継承した戦略戦術として評価されなければならない。我々は、H・J戦術そのものが全面的に正しい闘争形態であるとは決して規定し得ていない。世界革命戦争の対峙段階にいたる現代過渡期世界において、革命戦争の主要な戦術は敵のせん滅戦を中心として断固組織した戦略戦術で闘わるべきであり、全てのH・J闘争は明らかに持久戦略闘争によって敵の姿を暴わにし、戦術の遂行過程における闘争主体の共産主義的モラル||兵士のモラルを貫くことにより全世界人民の革命闘争へ、眞の革命、闘争宣言の真実化を計るものでしかない。H・J爆破闘争における全ての同志達は眞実の体現を革命兵士として貫徹したのである。我々は、その評価軸を見失つて、H・J闘争の負の側面をわめきたてる小ブルの個人道主義の

いに敵対すべく戦列を組み、奴等の独善的な利権を守ろうと必死になつてゐる。奴等は、「国際規模でテロリストを弾圧しよ！」あれほど長時間にわたつて乗客を苦しめた非人間的なテロリストを追放してしまえ!!」と叫んでゐる。

そして、そうわめき散らしているのは、帝国主義者・シオニストや反動主義者ばかりではない。今回のH・J闘争を非難するけたたましいばかりの大コータスには、P D F L P（パレスチナ解放民主人民戦線）のようなパレスチナ解放闘争の指導者たちすらも加わつてゐるし、彼等は世界革命と被抑圧人民に敵対し、敵・帝国主義者とシオニストの利権を保護するつもりになつてゐるとしか考えられない。

一、誰が非人間的であり誰がテロリストであるかを明らかにすることは重要なことである。

ヴェトナム人民を虫けらのように戦慄し続けているアメリカ帝国主義、ヴェトナムを爆撃しているナバーム弾の九〇%以上を製造輸送している日本帝国主義、理由もなくリビア旅客機を撃ちおとし百人以上の旅客を殺害したシオニストについて正確に認識しておかなければならぬ。

二、我々は、全世界の被抑圧人民の前に、今回のH・J闘争の目的が、日航東京事務所に手渡した要求書にも表明したように、次の通りであつたことを明らかにする。

(a) 日帝によって長期間投獄されながらも完黙で闘つてゐる日本赤軍の政治犯の釈放。

(b) 日帝が日本及び全世界の被抑圧人民から奪取した財産の微少な一部を奪還し、人民に還元すること。何故なら、日帝は今もな

お全世界の人民から労働と快樂と努力の一切を搾取し、軍隊で人を抑圧し続けているからである。

三、我々の目的は、もちろん、共通の敵に向けた共同武装斗争によつて固く結ばれてゐる被抑圧人民の不滅の連帯の重要さを示すことであつたし、帝国主義とシオニズムに先導されて結束してゐる反革命同盟勢力と正面から対峙する共同闘争の実践を媒介にした今回の闘争を、人民の眞の闘いの典型を創り出すことにあつた。

四、今回の闘争は、更にテクノロジーと完璧な防衛体制によつて不敗の組織を作り上げたと思ふこんでいる帝国主義の虚弱なデマゴギー構造を暴露し尽した。我々の革命性は、機械力とテクノロジーで武装した帝国主義者たちよりも、より強力な実力があることを実証している。

五、今回の闘争を媒介にして、我々の目的は、日帝がシオニストと交わしてゐる秘密外交政策を暴露することにあつた。日帝は、我々の同志が闘つたりッダ空港銃撃戦争後「償金」として膨大な金をイスラエルに支払い、パレスチナ人民の闘いと敵対していることを暴露した。

奴等は、リッダ闘争をイスラエル、米、日間の反革命同盟を固めるチャンスに生かそうとし、イスラエル建国二十五周年記念式典に大代表団を送りこんだ。

六、このH・J闘争は、また、日本帝国主義者のデマゴギーと、我々の闘争の眞実を歪曲するために用いるマヌーバーを暴露した。この作戦は、パレスチナ革命と帝国主義本国内の日本人民の闘争の連帯を力強く表現している。

日本帝国主義者は、今もなお、この世界の人民によつて語られてゐる。

いる眞実を拭い去ろうとして、多くの間の抜けたデーターメを唱え続けてゐる。このことは、彼らがシオニストや世界の帝国主義者どもと共にアラブ人民やアジア人民をも抑圧しているのだということを示している。

彼らは、この作戦に対しシオニストに援助してもらうために東京—テルアビブ間にホットラインを開設し、H・Jに関するニュースが入りしだいイスラエルからの助言を受けているのだ。彼らは日本に、イスラエル軍武官、小林日航社長（前総理佐藤のブレーンの一人）の指揮の下にあるH・J対策局を設置した。そして、彼らは人民に、この局が乗客の生命の安全のために作られたと信じこませようとしている。

しかし以下の眞実は、帝国主義者は乗客の生命など全く考慮せずに、ハイジャッカーと乗客を、我々の要求を受け入れずにあの長時間の苦しみのなかに放置したということを明瞭にする。これは、彼らが、もし乗客が殺されることになつても構わないのだと考へていてることを証明しているのだ。

我々の日航への要求は、日本時間で七月二一日土曜日の朝九時三〇分に日航東京事務所に手渡された。その後、我々は日航事務所に、手紙を開き、我々の要求を読み、それに従つて行動するよう電話した。約五分後、五台のバトカーが事務所に急行した。これが実である。帝国主義者、シオニストの計画は、タイムリミットまで彼らの拒否を述べないことによつて我々の要求を無視することだつた。彼らは、乗客の安全を判断するチームをドバイに派遣することによつて、このことを隠した。彼らはまた、脅迫状を七月二三日の郵便で受けとつたと偽らうとした。彼らは、このように、彼らの姿

勢を隠すために、ハイジャッカーと乗客を故意に危険にさらしたのである。

七、誰が眞のヒューマニストか。

これらに比べ、我がコマンドはどのように行動し、いかに乗客の生命の安全に心を配つたか。

(a) 我が戦士の一人は、完全な革命的自己犠牲の精神から、飛行中に起きた手投げ弾の暴発に際し、彼女自身の体で手投げ弾を覆うことによつて、自らを犠牲にして乗客すべてを救つた。

(b) 残りの戦士も、乗客の安全を強い意志と革命的モラルによつて守り、闘争を完遂した。

(c) 我が戦士は、乗客と乗務員の安全を確認した後に飛行機を爆破し、完全に命令を遂行した。彼らは爆発の寸前に、最後に飛行機を離れたのである。

これらの眞実のすべては、乗客の命を救つたのは誰で、ドバイにいる間中、乗客を苦痛の中に放置して、安全など考えもしなかつたのは誰であるか、を明瞭にしてゐる。我々は、我々の軍事行動が成功したこと、また、日本帝国主義者と彼らのファシスト・シオニズムと世界帝国主義との緊密な共同行動に報復する当然の権利としてジャンボジェットを人々に破壊したこと高らかに宣言することができる。

八、平和を愛するヒューマニストを装おうとした日本帝国主義者の眞の性質は、彼らの正体を暴露する以下の眞実によつて明らかにされる。

アジア・アフリカ・中東への経済侵略の中に示される。彼らは日本石油消費量の四〇パーセント以上の供給を確保するため、一九七二年、イラン反動王制、米帝と共にイラン石油合併会社を設立した。それはまた、イラン反動体制との関係を増々明るみに出す。彼らはまた同じ年にイランの石油化学と銅鉱業への日本のプラントの合同協議会を持つている。

(b) 日本国においては、彼らは日本の小資本主義を一掃ないしは吸収する日米共同資本の重工業を進めている。

(c) 共同資本によって、世界帝国主義・世界シオニズムと日帝の共同行動を深めながら、彼らはアジア・アフリカ・中東を経済的に侵略するのである。

(d) 彼らは、帝国主義者にタンカーを作ることによって、中東の石油搾取を援助している。彼らは、今、イギリスの会社によって発注された世界最大の一隻のタンカーを英帝のために建造中である。これらの真実のすべてを隠そうとして、彼らは「我々は早急に中東が平和になることを望んでいる。中東で行われている闘争の局外に我々は立っている。」と主張するのだ。これがただの口実にすぎないというのが真実だ。彼らは完全に世界帝国主義・世界シオニズムと共同行動を取っている。

#### 九、結論として

世界中の革命勢力と連帯した我々の継続的な闘争によって、我々は、日帝とそのデマに満ちた外見、世界帝国主義世界シオニストとの共同行動、そして彼らのアジア・アフリカ・中東に対する合同經濟侵略を暴露し続ける。我々は、我々自らの闘争と我々自らの財源によつて闘い続ける。

## パレスチナ革命連帶テーゼ　日本の戦士へ呼びかける

7・24 宣言

アラブ赤軍

同志たちによつて、日航ジャンボH・J闘争は、非妥協的に闘われた。その目的は不屈に獄中で闘つている日本の同志・友人を奪還すること並びに、帝国主義者に搾取された巨万の人民の労働の代価のほんの一部を、帝国主義者からとり返すことについた。しかし今日本帝国主義者は、デマと中傷の驚くべき宣伝によつて彼等の立場の延命を計つてゐる。

帝国主義者は、今回のH・Jによる政治犯奪還の我々の要求を拒否し、まったくデマによつて、人民を納得させようとしている。即ち「ハイジャッカー側からは何の要求も出されていない」という驚くべき詭弁である。我々は日本時間七月二十一日午前十時には、既に我々の要求する政治犯釈放の為の名簿と、その秘密移送の方法を、日本国内から秘密裡に要求していた（手渡したのである）。我々は、CIA、シオニストテロ団の移送中ににおける妨害を考慮し、政府に対し秘密裡に我々の指令に従つて動く命令をした。

しかしその要求を拒否という即答を行わずにのみ消し、タイムリミットまで引き延ばしておいて、あたかも心配顔で、先に日本よりドバイに到着した朝田社長並びに運輸大臣に対し、その事実を知らせず、万全を期すよう指令するなどのボーズをとつたのである。この一切の事実から乗客に長期の困苦を味わせるどころか、乗客の命を見捨てたのは田中 小林（佐藤栄作のブレーンで日航会長）であり、乗客の安全と命を救つたのは、我々の同志たちであつたことが明確である。

我々は、帝国主義者やシオニストとの平和共存といつたゴマカシの中に人民の闘いを置くことを拒否する。我々は自らの闘争によって革新的エネルギーを得、そして世界の抑圧された人民の権利を守り、帝国主義者やシオニストの統治の中に革命を限定しようとする勢力、すべての反動勢力と対決してパレスチナ革命が成功するまで、闘い抜く決意である。

世界中の革命的友人の皆さん、H・J闘争の性格についての多くの疑問、疑惑に対し、すべてを明らかにするのは我々の義務である。もちろん、シオニストや帝国主義者の影響の下にあるすべての敵の報道機関は、作戦の最初のコミュニケや飛行機からのコミュニケを無視したであろうが。

闘うアラブ・パレスチナ人民諸君！

我々は、諸君の闘争と不退転の決意を表する。また、我々はリビアの兄弟達に対し、我々のコマンドを、共通の敵に対し共通の目的で闘つた革命家として遇することを求める。

ヨーロッパ革命万才！

パレスチナ革命万才！

日本とアメリカーイスラエルの反革命共同行動打倒

世界中の被抑圧人民の連帯万才！

我々同志女性兵士は、機内でH・J闘争に移つた直後、不良弾を発見し、乗客の安全と闘争の貫徹をめざす強い意志に支えられていたが故に、とっさに自らの体を不良弾の上に被い、飛行中の爆破を最小限に食い止めたのである。この犠牲的精神と無私の革命への献身があつたからこそ、乗客に対する安全は保障され、高い戦士のモラルに支えられながら、闘争を更に非妥協なものへと貫徹したのである。この女性同志の断固とした革命性を我々は、深い愛と連帯を込めて闘う日本の同志、友人、戦士諸君に告げておきたい。確認すべきは、乗客を虫けらのごとく無視した帝国主義者共の“人命尊重”と、女性兵士によつて、自己の死をもいとわず貫かれた“人命尊重”の事実である。

そして又、日本帝国主義のするいマヌーバーに対し、乗客の命を確保しつつ、ジャンボジェットをこつぱみじんに爆破したこと、我々の当然の権利であったことは明確である。我々はこうした日本帝国主義者のみせかけの人命尊重というボーズを断固とした闘いを持续することによつて暴露し、人民並びに乗客にかわつて報復を宣言する。更に我々は、抑圧者、日本帝国主義者によつて、長期に獄中で拘留されている同志、友人を必らず奪還し、世界中の革命戦場の戦士として共に鍛え合い、戦いを持続することを宣言する。

日帝に死を！

シオニストファシストに死を！

ハイジャック闘争貫徹万才！ 世界革命万才

## 日本の戦士へ呼びかける

同志諸君、友人たち、とりわけ不可視の戦士諸君！

我々は今回の闘いを教訓化し、更に世界中の戦士と鍛え合い、政治的確信を武装闘争として表現しつつ、世界革命への道を進撃することを誓う。そして着実に攻め込むプロレタリアートの時代へのこの端緒を、闘いを共有するあなたたち同志友人戦士諸君に捧げる。

今回のH・Jによる共同武装闘争も又、テルアビブ闘争を引き受けた我々赤軍のいまだ端緒でしかないことを、我々は正に認め、更なる飛躍に向けて進撃する。同時に、ブラックセブテンバーが初めて登場したと同じ現象——すなわち、PLO右派指導部の革命への圧力として表現される「Son of Occupied Landなど」という組織は実在せず、H・Jは暴挙である」と非難する帝国主義たちとの二重奏を、我々はパレスチナ人民との結合において粉碎する。

行動と犠牲の上に輝く、テルアビブ闘争三戦士の闘いを、我々革命のモラルの出発点とし、三戦士の生を学び、死を継承しつつ進撃する世界中の抑圧された人民のための闘いを、更なる国境を越える武装闘争で証していくことを、あなたたちに約束する。世界中の共に立つ国境を越えた戦士たちの日本革命との連帯は、武装闘争を媒介に、相互に戦線を鍛え、隊伍を固めつつある。もう幾度、我々はこう呼びかけてきただろう。「日本の同志諸君、友人たち、戦線を

「そんなことは判つてゐる」等と言わないでほしい。何故なら、各組織に結集している一人一人のひたむきさが、無用な分裂と内ゲバを結果として描き続けているのだから。一面的な近視眼と党派エゴイズムは、敵帝国主義者に猶予ばかり与え続けて来た。我々は敵の敵を射程に闘わねばならぬことを知らなければならぬ。党派エゴイズムが人民のためという大儀名分で、内ゲバを繰り返している。内ゲバが単なる党派の保守であり、エゴイズムである現在の状況においては、プロレタリアートのエゴを、敵帝国主義者への反撃の力として組織し、改造し合う展望へと向つてはいかないのだ。我々は不屈に日夜闘い、続いている世界中の抑圧された人民のために闘いを組織するのだ。自分のために闘う奴は又、自分のために自供し、自分のために戦線逃亡を企てる。友人たち、同志たち、自己保身のための党派闘争、空論は相手にせぬがよい。

我々はこう言つてやらなければならない。「蜂起」「戦争」と大仰な言葉を吐く前に、毎日三十分の体操で、体を鍛えた方が良いと。敵自衛隊、機動隊は、日夜、我々と敵対するために、肉体訓練をもつて帝国主義者共に銅いならされているのだ。わずかな時間の体操を毎日持続し得る精神力と、その自己管理こそ、蜂起戦争を生きたデーターとし得るのだということを知らなければならぬ。『世界党』『世界プロ独』という前に一つ位い、外国语を日本語と同じように

喋れるよう、日夜持続的な努力をすべきである。世界党派闘争を、日本語でしか措定し得てない党派の思い上った空論主義は、益々日本の一国性へと逆戻りする。眞面目でひたむきなおしゃべりに同情的である程世界革命の現実は、寛大さを持ち合わせてはいないのだから。

『綱領』『綱領』と叫ぶことより（その綱領も普遍性を持たないため、一年位でひっこめられたりする代物である）日本革命統一戦線のルールをまずつくるべきである。そのシンプルなルールを認めて結集する様々な世界観が行動によつてつちかう普遍性こそ、真的綱領を導くものであり、するい希望を同居した「党派性」というひとりよがりを解体するのだ。だからといって、我々は党派性を否定しているのではない。敵との闘いによつて示される眞の党派性は、革命の方向を与え、人民を党派闘争の中で改造し合うものだからである。ただ現在、各党派が、党ではなくその志向性を持ったグループであるという各自の客観的な位置を認めることである。共通性、評価を認め合う関係の中において、初めて各自の否定的な側面を改造し得るのであり、違いをさがし合う一見眞面目でひたむきなおしゃべりは、現在の革命の段階においては利敵行為である。

空想的社会主義者に対しかつてマルクスは、こう批判している。

「社会活動のかわりに、彼ら（空想的社会主義）の個人的な考案活動があらわれ、解放の歴史的条件のかわりに空想的な条件があらわれ、次第に行われるプロレタリアートの階級への組織化のかわりにかつて、案出した社会組織があらわれざるを得なかつた、彼らにとっては将来の世界史は、彼らの社会計画の宣伝と実行とに帰着するのである。成程彼らは、その計画において最も苦しんでいる階級としてある。

ての労働者階級の利益を代表すると自認している。彼らにとつてはプロレタリアートは、この最も苦しんでいる階級という立場で存在するだけなのである。」もう悪無限的な解釈論議はやめた方が良い。革命の情熱を社会主義用語とやらでふきとばし、觀念化させることは、何一つ解決しないのだから。君たちは無知を笑い、マルクス主義理論武装とやらを競つてしてきた。

それは何を生みだしたか？ 勝手な解釈で、相手をときふせる道具にしかなりはしなかつた。しかも大学生の本棚の中で、闘いの必要性に要求されて、むさぼるマルクス・レーニン主義は生き物のようであり、ただ他党派にやつつけられないよう、又はやつけるためにめくるマルクス・レーニン主義は、紙屑のようにはかないものである。日本の同志諸君、友人たち、我々の任務は世界中の帝国主義者とその手先を、地球的規模、宇宙的規模で抹殺することにある。すなわち抑圧された階級の手に宇宙をとり戻す作業である。そのために必要な日本における闘いは世界中の後方として日本の前線を構築することにある。帝国主義本国の前線創出の闘いを、世界中の闘う人民は後方として、日本人の日夜の闘いを支えている。味方の連係プレーを強めながら、持久的な前線と味方を同質にうち鍛え、堀りおこし、生活を革命する作業に内在するモラルこそ、未來のモラルを表現し、不滅のプロレタリア綱領をうち鍛える。生活のない職革きどりはやめた方が良い。戦後、崩壊した共産党を現実の世界革命のレベルで再建する一步は、武装闘争を承認する小さなグループの統一戦線の内容として指定されるルールをつくりながら、今こそ始めるべき時である。「それならアラブ赤軍の考えは統一戦線党にたどりつく。」等と言い出すあらゆる左翼小児病患者の懸念

地下に統一し、隊伍を整える時だ！」と。そして今、闘いを終え、確信に満ちた我々の呼びかけには変りない。そればかりか、隊伍を整え、共に進むことが如何なる敵帝国主義者の策動を打ち破る術であることを、更に更に確信を込めて、日本の同志、友人に呼びかける。

をものともせず、我々は単一の党形成のために今、統一戦線構築の作業に内在するプロレタリア政治の相互改造を踏まえつつ、その作業への着手を呼びかける。「左」「右」の日和見主義は合法主義によつて育成されてきた。合法主義者の建軍、建党は、武装闘争ではなくコマーシャルによつて、人民の注目を集めようとする。連合赤軍の同志諸君もまたその誤りを犯した。すなわち戦線の統一を非公然ではなく、公然と大衆に噪りまくることによつて、真の大衆への言葉!!武装闘争を自ら不可能に落し込めていった。太田竜以下、あらゆる個人グループもまた、このことに無自覚に先進的人々を説得するつもりで、敵権力に我々の陣型を教えていた。我々は今こう呼ひかけねばならない。

戦線を地下に統一し隊伍を整える時だ!

非公然から公然と闘争を経て登場せよ!

非法から合法活動を創出せよ!

その逆、つまり公然から非公然、合法から非法であつてはならない。

我々は日本階級闘争の最良のテーゼとして、赤軍派の問題意識を軸に、世界革命戦場に飛翔し闘い始めた。しかし最良のテーゼであつたその内実は、今、我々自身によつて、その一国性、合法主義、一面性と抽象性を批判されつゝある。我々の積極的批判とは、眞の世界性の認識、それに規定された日本階級闘争における非法、非公然の革命の蓄積、立体的、現実的なその任務を、武装闘争表現によつた、あなたたち闘う同志、友人、戦士と交通形態を獲得することにある。

我々は我々の国境を越える武装闘争こそ、あなたたち日本の同志

でのプロレタリアートの現出) からの世界武装プロレタリアートのテーゼ

②この現実に規定された現代帝国主義の分析からプロレタリアートのブルジョアジーに対する逆制約の能動的テーゼ ③世界党—世界赤軍—世界革命戦線の陣型に領導される単一の永続的同時、同質的な世界革命戦争による世界プロ独へのテーゼ、を我々の主体的立脚点とする。この三つのテーゼに対する積極的批判、検証—発展豊富化が現実の世界情勢の客観的要求であると認識する。

② それ故、我々は現代世界が帝国主義諸国、社会主義諸国、第三世界階級闘争として現出されつゝも、三ブロックの階級闘争が同質化を深めていると認識する。即ち民族解放闘争は世界性をもつた闘争であり、開花していない帝国主義国内闘争の世界性と同質の革命戦争を内実とし、社会主義本国内の眞の国際主義への萌芽、プロレタリア権力の改造に向かう反修復闘争と結合した世界単一の共産主義運動として、その目的及び闘いを必要としていると認識する。

③ その現実において世界革命戦争の前線、銃後、後方は即ち、銃後前方前線として帝国主義打倒の闘いを可能ならしめていると認識する。それ故、先進国革命主体論の一面性と第三世界革命主体論の一面性(ベトナム分離隊的認識)を单一の世界革命戦争の戦略論の欠落として批判する。それ故我々は市民社会内部に戦争の物質的基礎を構築すべき戦略展開を模索する。

④ 又、第一インターから第三インター(第四インター)の公然合法の組織論を止揚し、地下組織体制の強化と、武装闘争による建党、建党の過程、即ち世界戦線構築のその過程に目的々に单一の世界党—赤軍建設は、内実化すべきと認識する。それ故、公然、合法の国際会議は現在の攻防の段階において、有効でないと認識する。

これらの問題から

☆我々は、武装闘争によつて、プロレタリア政治を、世界共産主義運動として組織しつゝ、更なる主体へ即ち世界赤軍の改組に向けてたゆまず進撃する。

☆我々は単一の世界党—世界赤軍形成に向けて世界中の(日本の)あらゆる党派に世界統一戦線構築を共同に担うこと呼びかける。

☆我々は国境を越える共同武装闘争の闘争形態を世界共産主義運動のプロレタリア政治の表現として堅持する。

☆我々はプロレタリア国際主義と組織された暴力を世界中の各本國での革命の旗印とすることを呼びかける。

☆我々は世界中を非公然非合法に移動し得るプロレタリアのシルクロードを世界中の同質の戦線と共に相互に構築し合う。

☆我々は反帝反シオニズム反動反修を武装闘争によつて表現する。革命を堅持する世界中の同志友人を仲間とする。

☆我々は一国の革命に至る過程を武装闘争によつて闘い抜いている世界中の同志を軸にした、その自力更生を主体として闘う。(我々は既成の国家が、如何に革命的であろうとも政策が歴史的制約にある現在、それらの国家に依拠しない。制約をうけない。)

☆我々は世界中の各組織に対し各国革命闘争が(それに表現される党派利益)が世界革命の利益に従属すべきであると宣言する。(それ故無駄な内ゲバは愚の骨頂)

☆我々は共同武装闘争を目的化しない。しかしそれが相互の持久的な共同作業の出発点であると原則的に認識する。

諸君との最高の対話の交通形態であると確信している。又、同時に、赤軍派が提起した現在の日本階級闘争における最良のテーゼが、日本諸党派の狭い枠組の中で、日本のみの党派闘争の自然成長性として終始し、世界革命戦場の発展段階をブルジョア新聞によつてしか対象化し得ていなかつた日本革命戦争の世界との交通形態の不在といふ当時の限界性を痛感した。今、我々が引き受ける任務の軸に、やるべきが現実の中で解体され、新たな闘いのプロレタリア権力の萌芽が、その内側、外側から未来にいるいと湧き上つてくるのを、ここから階級闘争歴史の日本として見ることができる。

同志諸君、友人たち、革命の統一戦線の準備会草案を練るために、あらゆる戦線から、ある日、ある場所に、闇から闇へと、プロレタリアートのアンテナを通じて結集しよう。我々は日本に行って共同にその作業を担うこと約束する。我々が孫悟空になるのではなく、お釈迦さんになつて敵帝国主義者の全智全能を我々の掌で操作し得るように、世界党—世界赤軍は世界中の(日本の)革命統一戦線構築に向う世界共産主義運動の中に赤々と孕まれている。

同志諸君、我々の現在の立場はこうである。六九年、日本赤軍派が定立した三つのテーゼ

(1) ①階級闘争の世界史的段階の規定(一九一七年の支配階級とし

☆我々の全ての革命の財産は共通の目的に向う全ての闘う人々のためで解放される。

☆我々のいう武装闘争という合法主義者、右翼日和見主義者のそのエスカレーショントル線ではなく、建軍、建党を包摂する武装闘争であり、一見それと切断された大衆の自発的闘いと結合する。

そして更に愛すべき日本の同志、友人戦士諸君。今、世界的規模で武装闘争によって行なわれている政治犯奪還闘争を、国境の内側から帝国主義本国、日本から開始すべきであると宣言する。我々は幸運にも世界中の戦線との連帶の強化の中で、その戦術を可能ならしめている。武装闘争を勇敢に闘い抜いているあらゆる個人に対し、我々は必ず奪還でその戦士の名誉を回復するために、闘う用意があ

る。闘い抜いた同志には同志的返礼を我々は行う。それが革命のマナーである。そしてそれを担うべきはあなた達日本の同志たち友人たちである。

我々は國際主義と抑圧された人民の暴力を組織し、敵のあらゆる装置を粉碎するために更にすすむ。我々は行動と犠牲の上に燃える革命を堅持する。日本の闘う同志、友人、戦士諸君。共に戦線を地下に結合しつつ、別個に敵を撃ち続けよう。我々は赤々と燃える帝國主義本国日本国内の革命の火の手をその強い不滅の炎を我々の胸に描きつつ進撃する。

行動と犠牲の上にもえる革命万才!!

## 10・21集会へのアピール

P F L P 国際局

日本における革命闘争の記念すべき10・21集会に結集した日本の革命的人民の皆さん！

今、われわれは、ファシスト・ショニストの軍隊と斗い、そして勝利しつつある。

しかし、同志諸君！

われわれは、単にパレスチナ・アラブ人民の解放のためだけではなく、世界の全ての抑圧された人民の解放のために斗っているのである。

世界帝国主義——ショニズムに対する斗いは、第四次中東戦争として限定することなどはできない。全アラブ人民の斗いは、世界革

命に向けた第一段階として斗わなければならないことを、われわれは確認している。

日本の革命的同志、人民の皆さん！

世界プロレタリア革命万才！

パレスチナ革命万才！

日本革命万才！

## 11・2 シオニスト・イスラエル打倒！パレスチナ革命連帯集会報告

### ○総括報告

世界革命戦線情報センター

全ての革命的同志・友人諸君へ！  
ショニストのパレスチナへの侵略、抑圧の発端としてあるバルフォア宣言の五六年目に当る十一月二日、東京千駄ヶ谷区民会館に於いてパレスチナ革命へ連帯しショニスト・イスラエル打倒の決意に燃える圧倒的多数の同志の結集をもって「ショニスト・イスラエル打倒！バルフォア宣言糾弾！パレスチナ革命連帯集会」が圧倒的に勝ちとられたことをまず報告します。

本集会は、日本に於ける大衆的なパレスチナ革命連帯運動をその最先頭で展開してきたパレスチナ革命連帯共闘会議（パレスチナ解放支援委、パレスチナ人民支援センター、世界革命戦線情報センター）の呼びかけにより、この間パレスチナ革命連帯運動を積極的に推進してきた様々な団体、グループの積極的結集によって集会実行委が結成され開催されたものであります。

集会は、五・三〇テルアビブ銃撃戦、七・二〇日航機H・J爆破闘争等を通じパレスチナ・アラブ人民と日本人民との、共同軍事行動をも含んだ固い団結と連帯による英雄的な闘いに恐怖して弾圧と情報収集にウロツク官権共を尻目に最後まで断固として貫徹されました。

の発言に移り、パレスチナ人民に固く連帯し共にシオニスト・イスラエル打倒、世界帝国主義・アラブ反動派打倒、日本帝国主義打倒へ向けた闘いを貫徹し抜く決意が述べられ、最後に事務局団体であるパレスチナ人民支援センター、世界革命戦線情報センター、パレスチナ解放支援委による、今後も日本に於けるパレスチナ革命連帶運動を、その最先頭で闘い抜くべく決意を表明する発言が力強く展開され、日本に於けるパレスチナ革命連帶運動の強化を勝ち取り、真のプロレタリア国際主義を打ちたて、パレスチナ人民に敵対している日本帝国主義への闘いを一層前進強化させる為具体的な闘争方針として、シオニストの宣伝機関である「日本共同体（キブツ）協会」解体、日帝の七・二〇日航機H・J爆破闘争四戦士引渡し要求粉碎、パレスチナ革命連帶運動に対する弾圧粉碎、岡本戦士早期奪還、PFLP日本人医療隊へのカンバ活動等を集会の名に於いて採択し、インター齊唱をもつて終了した。

我々世界革命戦線情報センターは、七・二〇日航機H・J爆破闘争の地平を更に継承発展させ、プロレタリア国際主義の質を具体的実践的に示すものとして、パレスチナ—日本—全世界を結ぶ国

## ○ PFLP 国際局よりのアピール

日本の革命的人民によつて開催される、十一月一日バルフォア宣言糾弾粉碎集会に集まつた日本の友人、同志、各戦線の皆さん！私たち日本人医療隊は、パレスチナ解放闘争への更なる支援と連帶行動を要請することによつて、皆さんへの連帯の挨拶にかえます！

現在、パレスチナ・アラブの人民は一丸となつて、イスラエル・アメリカの間に結ばれているシオニズム—世界帝国主義の野心の全貌をありありと目にし、彼等を打倒するまで闘い抜くことを契い合つて闘つています。

## ○ アラブ赤軍よりのアピール

同志諸君！

今、占領下で斗いぬいでいるアラブ・パレスチナ・ユダヤ人戦士の巨大な攻撃のニュースが、その犠牲的英雄的死と共に刻々と伝えられている。西部戦線、北部戦線の戦争の持続を、戦争の拡大をまさに敵シオニストイスラエルの心臓部において不退転に斗い抜いている。

ソ連にバックアップされた民族主義政権の限界と、米帝を駆使した世界シオニズムの全力投入によるイスラエルへの援軍援助は国連の介入を可能ならしめ、新たなバルフォア宣言の土俵を築きつつある。

際地下兵站線の構築強化を集会に結集した全ての同志の前に提起し、その最前線で闘う旨決意表明を行いました。

本集会は、五・三〇テルアビブ銃撃戦以降日本に於いて展開されているパレスチナ革命連帶運動を総括し、更なる強化発展を勝ち取り今後の方向性を明確にすることが確認されました。昨年、八・一六京都集会より十一月国際週間、アルカラメ戦闘記念討議集会、五・三〇テルアビブ銃撃戦一周年闘争等を通じパレスチナ・アラブ人民の闘いを大衆的にプロパガンダするとともに、日本に於けるパレスチナ革命連帶運動を一定の政治勢力形成まで高め上げて來た我々に、今問われているのは、記念日スケジュール闘争の消化から、明確に具体的実践的な闘争方針を持つた公然、非公然、合法、非合法の混然一体となつた連帶運動の質をどう獲得するのかと言うことであり、本集会はそのステップとして勝ち取られたものであることを我々はハッキリと確認する必要があるだろうとの考えを明らかにして、総括報告します。

以下、同集会に寄せられた、闘う最前線からのアピールを報告します。

世界帝国主義—シオニズム打倒！  
パレスチナ解放万才！  
全アラブの解放万才！  
日本革命万才！

私たち日本人医療隊は、その最前線で一歩も退かず、微力ながら、パレスチナ解放のため全力で医療活動を展開中です！

私たちの闘いにとって、心の支えとなるのはパレスチナ人の「解放に向けた正義の闘いの決意」であり、それを支え連帶している日本革命的人民の意志です。

結集された日本の友人・同志・各戦線の皆さん、パレスチナ・アラブ解放闘争への更なる支援と連帶活動を要請します。

革命の陣型を世界革命戦争によつて打ち破ることこそ、パレスチナに縮図された世界中の抑圧された人民の勝利への道である。それ故バルフォア宣言を承認している既成の社会主義国家群は国际主義と世界革命の敵対者なのである。

被占領下で斗い抜くパレスチナ人民及び、ユダヤ人民の斗いと結合し、更にアラブ民族主義諸国の政策の抑圧に抗して斗い抜くアラブ人民の戦列を拡大し、ユダヤ人の、反シオニズム、反帝斗争を世界中に強化し、共に反帝反シオニズム斗争を掲げて斗いぬく戦略こそ世界革命戦略であり、世界革命戦線創出の、まさに国际主義によって貫かれ国境を真に持たない抑圧されたプロレタリア人民の斗いの出発点である。

我々は現在の戦争を世界革命戦争として持续し、拡大し、国境を打ち破つて進撃する世界革命戦争統一戦線の隊伍をまさに今、うち固め斗い抜くことが要請されている。

日本帝国主義はシオニズムならびに米帝との反革命同盟の綱を楯に、独自の勢力圏拡大に向けたアジア侵略を着々と準備している。世界中の抑圧された人民の共通の利益に向け共に隊伍を整えよ！シオニズムならびに帝国主義が存在する限りパレスチナ解放はありえず抑圧された人民の解放は真に存在しない。

本日結集した同志諸君！

更に日本における世界革命の隊伍を整え、日本国内に革命戦線をうち固め、共通の人民の利益のために、共通の敵に向けて持続的な戦争を開始しよう。

我々は離れた戦場で攻勢の戦斗を不減に準備しつつ拡大され、ひとつにつながれる日本の戦場で出会うために今、更に隊伍をしつかり

と組む。

同志諸君、戦場で再会しよう！

バルフォア宣言粉碎集会に向けて

十月二十八日

アラブ赤軍

査証 第7号

発売中

定価  
450円

VIZA解散号

△特集▽ 7・20日航機404便H・J闘争

連赤敗北の総括の第二段階と  
民々革命論の検討 塩見孝也

貫徹万才！

マルクス主義の宗教性と科学性の矛盾

について 小説『査証』 奥平剛士・他訳  
ガッサン・カナフアーニ  
——今は亡き同志に捧ぐ——

真木一彦

# パレスチナ革命連帯共闘会議へのテーゼ

世界革命戦線情報センター

し、相互の理論斗争を追求することも共闘会議の質的強化につながるであろうことを確認している。

我々IRFは基調報告で述べられているパレスチナ革命連帯共闘会議の基本的活動方針に全面的に同意し、その最先頭で斗うことを決意していることを明らかにしたい。又我々はパレスチナ革命連帯共闘会議に積極的に参加活動することにより、日本の革命的左翼の観念的プロレタリア国際主義を批判し、揚棄しなければならないと考える。

「口先の国際主義と袂別せよ」と主張する諸君の国際主義の内実は「コミニテルンの変質と解散の歴史をどのように評価し、どのような態度をとるか」としたうえで、マルクス・エンゲルスの共産主義者同盟・レーニンのコミニテルンがそうであったように「国籍や民族にとらわれない共産主義者の組織が必要であることを承認しないもの、世界革命のために全世界に活動の場を求めるようとしないものは眞の国際主義者ではない」としている。彼らは「コミニテルンの変質と解散」の評価・態度を一般的に語ることにより、レーニンのコミニテルンにおけるトロツキー・スターリンに対する党派斗争の限界・中国共産党の総括・さらにレーニン死後の第三インターナンタルの諸論争に対する国際党派斗争の観点がもちえないものである。

我々は「口先だけの国際主義と袂別せよ」という、その観念性を必ず揚棄することを表明する。

日本における革命的左翼の最良の質を有していた共産同赤軍派は、統一赤軍の建軍武装斗争路線の貫徹過程での政治的・思想的敗北以降、一年有余にわたる総括論争後再建された。しかし彼らの路線は70年、赤軍派が日本新左翼の一国主義的・合法的国際主義を突破しようとした九人の同志による綽号H・J斗争を否定的に総括し、ハ世界党—世界赤軍—世界革命戦線の陣型に領導される单一の永続的・同時的・同質的な世界革命戦争による世界プロレタリア独裁のテーゼを清算主義的に総括し、プロレタリア国際主義を立場性一般におとしこめ抽象的な言葉にまつりあげてしまっている。

マルクス・レーニン主義と、プロレタリア国際主義の生命力は何よりも第一に革命的行動にあらわれるものであって、決して空々しい言葉のなかにあるものではない。ベトナム労働党然り、朝鮮労働党然りである。ベトナム人民は国境を突破し、ラオス・カンボジア人民との戦士的團結を勝ちとり、朝鮮人民は「韓国」の学生・労働者との固い團結のうえ朝鮮統一を勝ちとろうとしている。パレスチナ人民も然りである。パレスチナ人民は全世界の革命戦士と結合し、世界を戦場にしようとしている。

帝国主義国内プロレタリアートの国際主義は何よりも抑圧国内のプロレタリアートに対する被抑圧人民・プロレタリアートの不信と偏見とをすみやかに除くあらゆる実践的・理論的努力を行ない、自

国の階級利害を国際階級斗争に従属させる国際主義の思想と自國の最も抑圧されつけた諸階層の階級的情念を、怒りを、自分のものとする思想を一体化して学ばなければならないのである。

ベトナム労働党・中国共産党・朝鮮労働党はレーニンの「眞のプロレタリアートの前衛たる労働者党を有する国家では国際主義の思想と政策との日和見主義的および小ブルの和平主義的な歪曲に対する斗争が本来の、かつ最も重要な任務たる所以なのである。」ことを自らの実践によつておしすすめ、世界革命の最前線として又、大後方として存在している。我々はベトナム・中国・朝鮮人民のその大いに学び彼らの教訓を生かし、帝国主義国内のプロレタリアートの任務を貫徹していくであろう。

我々は決して世界階級斗争を平板化してとらえていないが故に、国際的任務として、革命の世界的同質化を、同時性を勝ちとるための当面の作業をプロレタリア国際主義の立場に立ち、全ての革命的潮流と実際的に結びつき得る地下組織—国际地下兵站線を組織しようととしているのである。国际地下兵站線とは革命の前線と後方・後方と前線を結び、非公然・公然を含む一切の物質的援助を可能にする人民の交通網である。

我々は過渡期階級斗争と反帝斗争を世界共産主義へと揚棄する観点から、その戦略的統一の基礎を原則的国際党派斗争を媒介にして勝ちとらなければならぬと考へてゐる。我々がこの間主張し、提起してきたハプロレタリア国際主義を堅持し、世界革命戦線の創出を世界革命戦線協議会へと組織化を勝ちとれゝという革命的かつ実践的具体の方針はすでに世界革命統一戦線として現実的に機能してゐることを明らかにしておきたい。

同志・友人諸君！　だれが口先だけの国際主義者でだれが眞の国際主義者か。必ず革命戦争のその発展過程が明らかにしていくであろう。

## パレスチナ革命の現段階革命の任務 ジョルジュ・ハバシュ

これは、一九七三年七月十日、ペイルート・アラビア大学において数千のパレスチナ・レバノン人民大衆によつて開催された「革命戦士追悼集会」で、ジョルジュ・ハバシュ博士が演説したものを、PFLP中央情報局がテキスト「THE REVOLUTIONARY OF TASK」として発行したものである。革命兵士とは、七二年七月自宅前路上でイスラエル秘密警察が仕掛けた爆弾によって暗殺されたPFLP中央政治局（情報担当・機関誌アル・ハダフ編集長）ガッサン・リカナ・フーニ氏であり、七三年四月、レバノン内戦の導火線となつたイスラエル白色テロ団によつて殺されたPLO本部役員たちである。

レバノン政権が、その白色テロをイスラエルに抗議するかわりに、在レバノン・パレスチナ人民を弾圧したことから端を発したレバノン内戦は、アラブ反動諸国政権がいかに「対イスラエル修正主義路線」を歩んでいるかを暴露し、レバノン人民のみならず全アラブ人民の怒りを呼び起こととなつた。

一方、レバノン政府軍と武装対峙するパレスチナ人民に対しても、「武器を捨てよ、内戦を起こすな！」とラウドスピーカーで日夜叫んでいたPLOの妥協路線は、パレスチナ解放機構という名ばかり

りの反動右派であることがレバノン軍の砲弾と空爆下で死傷する人民の主体とは全く無縁で無力化したものであることが明らかになつた。

パレスチナ人民を初めとする、パレスチナ解放闘争を闘う全アラブ人民は、在エジプトパレスチナ人民を弾圧・差別し続けて来たカリ政権とのゆきりを、そのPLO（本部内右派）の反革命性の中にさまざまとみてとり、眞の解放闘争を組織貫徹し抜くための闘争主体の構築の必要性に気づいた。そして、革命的に組織されたのが、民族戦線「Nation of Front」である。眞のパレスチナ解放を目ざして、初めて全アラブ人民が実体的に立ち上つた姿がそこにはある。パレスチナ革命の現段階は、その「民族戦線」に現われた拡がりと深まりを、いかに非妥協の闘いとして、持久的遊撃戦から正規戦へ組織し抜くかという最終段階に燃えているといふことができる。

このアピールを、その現状を考察した上で受け取めてゆきたい。

世界革命戦線情報センター

一年と二日前、ガッサンの血は流れ、めいのラミ（注1）の血と混つた。それから今までにアブユサフ、アダウイン、カザのゲバ

う、カマルハナセル、そして数十のいや数百の我が勇敢な人民の血が流された。この数十年我が人民大衆が支払った多くの犠牲の血の流れは続いている。この血に対する我々の責務は神聖なるものである。これらの犠牲者の魂は、そして彼らの家族や彼らに生を与えた人々は、我々の哀歌や涙を望んでばいない。これらの人々は我々に明瞭で確実であいまいさを含まないことを望んでいる。すなわち、勝利するまで革命を継続し拡大し、そしてすべてのエネルギーと能力をそこに結集することである。革命のために死んだ同志達に対する義務とはこのことしか意味しない。我々はいかにしてこの責務を遂行しなければならないか。義務はいかにあらねばならないか。

バレスチナ国家案粉碎！

修正主義路戰轉換粉碎

ますずへては先たる 革命の路綱からの脱落粉碎 戰略的目標から  
らの脱落粉碎、長期にわたる人民戦争からの脱落粉碎、困難な時期  
における脱落粉碎、重大な局面において原則しか考えない融和政策  
同志そして兄弟たちよ！

あらゆる革命の過程に、後退と失敗はつきものである。あらゆる革命が時に逆境と困難を通過する。そのような状況には、いつも妥協と融和の傾向が出現する。しかし、これは我々の路線が現実の中にあることの証じである。

もつとも、最近「パレスチナ国家」を語ったのはザヤットとブルギバの声明（注2）であるが、ここで彼らは何を言おうとしていた。

へ我々の地域のすべてを提供することになると思つて、我々は闘いそして死んだのではない。イスラエルが象徴し、そしてイスラエルだけが、その存在の根源的根拠であるがゆえに象徴し続ける、国家的階級的抑圧を生きのびさすために、我々は闘いそして死んだのではない。」

我が大衆は、革命路線とその戦略的目標から、奴らとの転換を拒絶する。革命の目標は、パレスチナ全域におけるただ一つの自由で民主的な国家の建設である。

我々の革命は民族主義的なものではなく、偏見を持つ者や敵が主張するよう、ユダヤ人を海に追い落す意図を持つてはいない。我々の革命は、この地域において根底的に革命的な変革をなし遂げようとするすべての利害における眞の連帯を求めて、イスラエルを含むすべての迫害と抑圧に対し戦うものである。

革命の戦略的目標は、アラブや世界中の進歩的運動と結びついた平和で民主的な国家にある。我々の目標は決して、帝国主義者の侵略基地としてのイスラエルを認めるうえで建てられるバレスチナ国家ではない。我々の革命は、敵の帰順に關しては、中立化し得る者をいくらでも認める度量を持つてゐる。それは友人を獲得し連帶の輪を広げることになるだろう。我々の革命は、それがどのよくな人々であれアラブや世界中に受け入れられる意見や勢力ならば、我々の正しい路線として受け入れる用意がある。しかし、革命は冷徹である。我々の連帶の成果は、我々の革命戦略に寄与しなければならず、革命の路線から離れてはならない。我々はどんな友情も支持も評価する。しかし、我々を革命の目標から引き離すどんな友情も我々は許さない。「革命の先生」はすべての連帶を、それによつ

## 科学的的前提

兄弟上

とは、  
ではなく、いかにその政治戦略上の利害のために動かすかということを知っていた。その「革命の先生」  
は、政治路線が影響を受けるのではなく、我々はそれを十分すぎる程度実感している。困難な時期は、そのようなアビールや融和への傾斜を生みだすものなのだ。また、路線修正の可能性を問うのは多くの我々の同盟者や友人の権利であることも十分承知している。革命の目標を達成する能力を再確認するのも彼らの権利だ。

しかし、彼らに対する我々の答はこうだ。

## 人 民 の 勝 利 の 必 然 性

### 科 学 的 前 提

兄弟よ

我々の主義における勝利の必然性とは、我々が生きている時代の基本的事実に基いた、明白な科学的的前提である。今世紀の始めから今日に至るまで、人類の歴史はどのように進行してきたか。第一次世界大戦以前、資本主義資本家は、自国の労働者階級を搾取し、すべての居住地域の数億の抑圧され植民地化された人民を搾取し、地球上の人類すべてを奴隸化し搾取していた。

その後何が起きたか。  
一九一七年、偉大な十月革命——最初の労働者と農民のための國家建設が生れた。第二次大戦後は社会主義ブロックが生れた。一九四九年、中国革命が勝利し、人類の<sup>1/3</sup>は帝国主義の不正な抑圧と植民地主義から解放された。

る困難さを利用してゐる。彼らは一九七〇年九月以前から、そして以後も今日に至るまで帝国主義の攻撃の繰り返しがもたらした我々の損害を利用している。彼らは我が大衆に対し、次のように言つてこの状況を利用しているのだ。

抵抗運動がおかれているこの困難な状況において、あなた方は実際に最も高慢な帝国主義と共同した優越性とそのすべての武力を持つてゐるイスラエル國家の絶滅を勝ちとることができるだろうか。

ここ数年のあなたの方の鬪いを通して、その受けている抑圧に世界の注目を引くことができた。だから、なぜもっと現実的になつてこの状況を利用して、自らのパレスチナ国家を作らないのか。それはもし望むなら、ヨルダン川の西岸と東部を得ることができるのに。」

兄弟よ、これが、我々の路線が今直面している修正主義者たちの転換方針なのだ。これらの言に対する我が大衆の答は何だらう。すべての我が大衆、すべての革命のために死んだ人々の列、カサム、アブダル・カディル・アル・フセーニ、イブラハム・アブ・ダヤ、ガッサン、カマル、アム・ニセフ、カリド、そしてナビル（注3）すべての革命に死んだ人々と、我々と共にあり彼らを産んだ人々はすべて声をそろえて答える。「我々の鬪争と死の結果が、我々にイスラエルの存在を認めさせることになると思って、我々は鬪いして死んだのではない。最後に我々の生れ故郷をうばおうとするシオニズムの権利証書にサインするために、我々は鬪いそして死んだのではない。我が故郷とその安寧国境にファシストが国を建てるのを我々が進んで認めるために、我々は鬪いそして死んだのではない。」「イスラエルの存在を我々が認め、帝国主義＝シオニストの搾取

て政治路線が影響を受けるのではなく、いかにその政治戦略上の利害のために動かすかということを知っていた。その「革命の先生」とは、

## 人 民 の 勝 利 の 必 然 性

### 科 学 的 前 提

兄弟よ

我々は、修正主義者が持ち込んで来る和解を拒絶することが簡単なことではないことを十分知っている。我々はそれを十分すぎる程実感している。困難な時期は、そのようなアビールや融和への傾斜を生みだすものなのだ。また、路線修正の可能性を問うのは多くの我々の同盟者や友人の権利であることも十分承知している。革命の目標を達成する能力を再確認するのも彼らの権利だ。

しかし、彼らに対する我々の答はこうだ。

我々の主義における勝利の必然性とは、我々が生きている時代の基本的事実に基いた、明白な科学的的前提である。今世紀の始めから今日に至るまで、人類の歴史はどのように進行してきたか。第一次世界大戦以前、資本主義資本家は、自国の労働者階級を搾取し、すべての居住地域の数億の抑圧され植民地化された人民を搾取し、地球上の人類すべてを奴隸化し搾取していた。

その後何が起きたか。  
一九一七年、偉大な十月革命——最初の労働者と農民のための國家建設が生れた。第二次大戦後は社会主義ブロックが生れた。一九四九年、中国革命が勝利し、人類の<sup>1/3</sup>は帝国主義の不正な抑圧と植民地主義から解放された。

ベトナム民主主義人民共和国が生れた。

キューバ革命は一九五九年に勝利した。

そして最近は、革命の教師であるベトナム革命！

人類の進展は完全に明白である。わずか五五年の間に、少なくとも人類の $\frac{1}{3}$ が、帝国主義者と階級的抑圧、迫害から自らを解放した。これが歴史の運動の方向である。

### 新しいアラブ社会の建設

#### 長期戦の戦略

世界のこの地域における新しい生活の建設は数カ月や数年でできることではない。人間的尊厳と自由を保障するアラブにおける新しい文明の建設は、そんな小さな戦いではない。しかし、この時代が人民の勝利の時代であると実感すること、そして、正義の解放斗争を遂行しているあらゆる人民が、その時代に対応して与えられた要因に従つて勝利を達成できると実感することは、重要なことである。

勝利の条件はますます明確になり、そして知り得るようになってきている。

#### 勝利の武器

前衛の大衆とすべての階級的革命勢力を動かす鉄の意志をもち、すべての大衆的支持を得るための体制としての広範な民族戦線（注4）（National Front）へと、武力と戦争、長い長い人民戦争を通して、関与させることができ、また、ベトナム人民が行なつたように、ファンタムをものとせず、細菌化学戦争を、その他すべてをものともせず闘い続けさせるのは、勝利を決意し妥協を知らない意識的革命勢力である。我々は帝国主義を打ち破るまで闘い続けることができる。ベトナムに起きたことは、パレスチナでも何を結果したのか。

#### 被占領地域における人民との革命の出会い

敵は、革命に死んだカマル・ナセルの追悼のためにビル・ザイト

にパレスチナ各地から集まってきた我が大衆の姿を見て驚いた。今

まで、それらのすべての策謀にもかかわらず、敵の告白によつても、少くとも毎日一件の武装斗争が起きている。六月五日のストライキを断念させるために、敵は多くの店を赤いワックスで封印しなければならなかつた。（注5）

被占領地域の我が人民大衆は、我々の支援を要求しているのだ。被占領地域内のパレスチナ民族解放運動の更なる実体化は、パレスチナ民族解放運動がその人道的で自由な視点を回復し、共闘をアラブや全世界に広げるうえでの要になつてきていてる。

我々の被占領地における活動は、ここ数年のすべての経験を踏み新たに始められなければならない。

広範な民族戦線は、その勢力に見合つた方法で占領に対抗する正しい暴力、すなわち大衆政治闘争によつて、シオニズム・帝国主義と闘うすべての勢力を集約している。我々の闘争は、そのリーダーシップの下すべての占領政策に対し闘つて、大衆に依拠することになる。

できるし、また起さなくてはならない。

これが革命に死んだ人々への義である

なぜ我々の友人達は居留地の論理の代りにこの論理を勧めるのか。なぜ数年間の武装レジスタンスによって、パレスチナ人の生存権を世界に承認させることができた後にも闘い続けてはならないのか。なぜ、我々の闘争を、戦争を続けてはならないのか。世界中のすべての権力に、我がパレスチナ人民が、自分達をいかに理解し、自決の意味をいかに理解して、故郷パレスチナの地においてのこの原則の適用をいかに理解しているかを分らせるまで我々の銃を構え続けては、なぜいけないのか。

我々の革命が直面している状況における原則的立場とは、この間の人民の経験によって獲得された革命的作業の法則に従つて、原則の方針、偏向の回避とその決意、勝利の必然性への信頼、これらの結合を追求しなければならないということである。

これは、今日我々の置かれている不利な状況を過去のものとする、我々の作業に関しての、未来のための最も重要な原則の一つである。

#### 被占領地域内部での闘争

第一に、被占領パレスチナでの活動。被占領地域内部での活動は、革命闘争における基本的で中心的な環とならなければならない。被占領地域の外にいるレジスタンス組織とその本部は、少なくとも四五パーセントのパレスチナ人民の中心環である彼等の重要性を無視して指導を行なうことはできない。一五〇万パレスチナ人、その四〇万がガザ回廊（注5）に、同じく四〇万が一九四八年以來占領されている地域に、そして七〇万がヨルダン川西岸にて、今もイスラエル占領下にあるのだ。戦争から七年が経ち、被占領地域の我が

#### ヨルダンにおける闘争

被占領地域の我が人民の問題の次に、二番目に多くのパレスチナ人がいるヨルダンの問題がある。ヨルダンにおけるパレスチナ人の義務は、帝国主義の反革命拠点としての現在のヨルダンから、パレスチナ革命運動の信頼できる拠点へとヨルダンを変革する目的のもとに、ヨルダン大衆、とりわけ西ヨルダン人とパレスチナ人へのあらゆる階級的迫害に対し、大衆を領導しつつあるヨルダン民族解放運動と合流せることにある。

#### 第三に パレスチナ革命を防衛するレバノン大衆の責任

レバノンにおけるパレスチナレジスタンス運動の存在に関しては、特に最近、特殊な意味と価値を認めなければならない。レバノンでの公然としたパレスチナレジスタンスの保持は、我々が、日常的に恒常に、あらゆる企てを打倒してパレスチナ武装斗争がここに在り続けることを宣言していることを意味する。また、パレスチナ大衆とそのすべての盟友に対し、日々語りかけうることを意味する。だからこそ、イスラエルと帝国主義は必死になつて、レバノンのパレスチナレジスタンス運動をつぶそうとしているのだ。だが、これは、レバノンで起きている多くの事件を説明するにすぎない。レバノンにおけるレジスタンス運動は、明確にそして具体的に（レジスタンスだけがそれを通じてその真実を目的達成の方法を知ることができるのだが。）レジスタンス全体の経験の中でもつとも偉大で重要な教訓を生みだしてきた。何がレバノンにおけるパレスチナレジスタンス運動を防衛したのか。運動は確かに自らをよく防衛した。

しかし、それだけでは十分な説明ではない。起きた事の現実的説明は、運動がレバノン大衆とレバノン愛国運動のもつすべての力によって防衛され、包まれていたということである。

### 愛国運動の役割

レバノン愛国運動、レバノンの自由を愛する人民大衆、レバノンのすべての進歩的勢力とその部隊、レバノンの一般市民、彼らはパレスチナ人民の主張の正しさを信じ、彼らを包囲しているシオニズムの危険さに気づいている。そして彼らが、今まで、レバノンにおけるレジスタンス運動を注意深く防衛したのである。それらの、レバノンを愛し慈しむ人々に対し、我々は言う。レバノンとレバノンの子孫への誇りは、革命にとっての最も困難で微妙な時期にあった。パレスチナ人の運動を、この国の大衆が防衛した。このことは革命の歴史に記録されるだろう。と。

レバノンにおけるレジスタンス運動の義務は、すべてにおいて、レバノンにお含まれているという点を基準とするということである。レバノン大衆に包まれていて、その運動の脱出は、敵の陣営の強力な力とすべての帝国主義の企てに対してもレジスタンス運動を包み存続させうる、アラブ民族解放運動の高揚に依拠するということは明らかである。レジスタンスの運動と、レバノン愛国運動、レバノン大衆運動、アラブ大衆運動との真の融合、高度の共闘の創出が、レジスタンスを戦略的難局から脱出させる方法である。一連の態度と方法を通じて、レジスタンス運動は、その支持者を団結させ、欠点を直し、その誤りを生産的なものとし、幹部、兵士、隊列、パレスチナ大衆を、もとと有効に正しく領導することができる。これらすべては一つの側面であり、他の側面はこれにおとらず

パレスチナ解放人民戦線の名において、私は諸君がこの追悼を共にしたことに感謝する。

最後に、我が兄弟であり友であるガッサンよ。私は今、以前にまして、革命に死んだ人々が、彼らが殺されてもなおいかに現実に多大に革命の任務を遂行し続けているかを知りはじめている。

注(1)一九七二年七月八日、PFLP中央情報局員がガッサン・カラフ・アーニーは、車に仕掛けられた爆弾によって暗殺された。

同乗した姪のラミリナジムも殺されてしまった。

注(2)一九七二年にはヨルダン国王フセインによって「パレスチナ王国案」が、七三年に入つてエジプトのサダト大統領からは「パレスチナ亡命政権案」が出された。いずれもパレスチナを收奪して作られた「イスラエル国家」がすでに承認されたものとしての、「過去の戦争は忘れて、現実から出発しよう」と呼べるにふさわしい以外の何物でもなかつた。

注(3)イゼディン・アル・カサム、アブダルカデイル・アル・フセ

ー、そしてイブヒム・アブ・ダヤは一九三六年～四八年のパレスチナ解放闘争のリーダーたち。カマル・ナセル、カマル・アドゥイン、アブ・ユセフは、一九七三年四月十日夜、イスラエル秘密警察（特攻隊とCIAの協同もあつたといわ

れている）のテロで殺された。カリドとナビルは戦場で勇猛な闘い後薦れた。

注(4)PLO（パレスチナ解放機構）の現状は、全て暗たんたる党派政治のゴミタヌと化している。その基本的な要因は、パレスチナ解放運動へ半ば義務的にしか支援活動を為し得ていないアラブ諸国政権が、自らの保守反動性をPLO政治に反映させんがために起つた諸問題——イスラエルとの最前線陣型を確保する戦略戦術の固定化、パレスチナ難民の日常武装闘争の戦略戦術の凍結——の修正主義路線の押しつけにあると言ふことができる。従つて、ANM（アラブ民族解放運動）として開始された歴史を持つパレスチナ解放闘争の各国及び各党派のパレスチナ人民の非妥協の闘争方針は、そんな修正主義路線を歩むことが出来ず、PLO内の政治潮流が妥協派と解放派に二分されただけでなく、その潮流は各國政権内分派活動をも呼び、全アラブ諸国の「パレスチナ問題」へと発展した。その内実が「パレスチナ王国案」「亡命政権案」「國家案」として、各国保守反動派の潮流として提出されているのである。一方、各國及び各党派内のパレスチナ解放・非妥協民族解放を堅持する人民たちは、その修正主義反動路線に對峙して、あの一九六八年～七〇年のヨルダン内戦の敗北的総括を踏まえて、一九七三年五月のレバノン内戦における「民族戦線 Nation of Front」の構築を生み出し、パレスチナ人民の弾圧方針を出したレバノン政権に對立して、レバノン人民、パレスチナ人民、シリア・イラク人民、ヨルダン人民（ヨルムーク軍團）が連帯した「統一戦線」行動を

重要であるが、レジスタンス運動はすべてのレバノン、シリア、イラクそしてアラブ世界全域の大衆に支持されなければならない。

### 国民連帯

これらすべての緊急の任務は、すべてのパレスチナ大衆を領導する統一体制を日々形成しているパレスチナ民族戦線連合を介さずには為しえない。国民連帯の主張は客觀点には大きな前進を勝ちとつたが、勝ちとれなかつたものも、それ以上に大きい。すべてのパレスチナ愛国主義勢力間の共通領域の完全な明確化のために、あらゆる政治的、軍事的、組織的主題での恒常的討論が続けられねばならない。

そのような戦線のみが、すべてのパレスチナ人、裏切り者とスパイを除くすべての女性・老人・成人・若者・学生・知識人を領導し結集させ得るし、また現存する敵との勢力バランスを勝利的に変え得るのである。

### 我々の国際同盟

#### 兄弟たちよ

困難な時期にレジスタンス運動が社会主義陣営からうけた支援は、レジスタンスを確立する役割を果した。我々は、不利で困難な時期に我々を支援してくれたすべての勢力に感謝している。レジスタンス運動が形成してきた国際的規模での同盟は、後方へいかに有效地に支援されるかを知るというレジスタンス運動の義務と、革命路線及び断固たる革命戦略を防衛する役割を果し始めている。

#### 兄弟達、同志達よ、

我々は続行しそして勝利する。

起したのである。その「民族戦線」の意味するものは、パレ

スチナ解放運動におけるPLOの堕落腐敗ぶりを証明しつつ、

全アラブ解放運動の環としてパレスチナ解放闘争を位置づけ

た、真に革命的な潮流の生起を物語っている。

注(5)パレスチナ南西端に位置し、シナイ半島への回廊的な地理上の

要にある。現イスラエル占領地で最も多くのパレスチナ人

民四〇万近くが、「ガサ・キャンプ」と呼ばれる鉄条網張り

のゲットーに閉じ込められている。

注(6)イスラエル建国の母体となり、今なおイスラエルの国旗にその軍旗が生かされている狂信シオニスト暴力団「イルグン」は、あのナチスドイツ親衛隊と全く同じ方法で、ナチスがユダヤ人民と親ユダヤ人民に「卍」印を封印して収奪殺戮を欲しいままでしたように、「×」印をパレスチナ人民と親バレスチナ解放人民に封印し、収奪殺戮を繰り返して、今日に至っている。にもかかわらず、被占領地内で続発するレジスタンス＝武装蜂起に業を煮やし、商店、民家の扉、窓、換気孔をメバリし密閉しワックスで固める狂暴さにエスカレートしている。

世界革命戦線 バックナンバー  
第1号 テルアビブ銃撃戦 ¥100  
○パレスチナ解放・テルアビブ銃撃戦勝利万才！  
○世界統一革命戦線の創出万才！  
○アラブ赤軍からのテーゼ

第2号 遊撃戦争貫徹！ ¥100  
○戦闘宣言 アラブ赤軍  
○「北帰行作戦」の貫徹・勝利！  
△赤1P▽第二期全国上映隊  
△ヨージ・バドモア覚え書 松田政男  
△テルアビブ銃撃戦一周年

第3号 「共同軍事行動」による更なる進撃を！ ¥120  
○パレスチナ革命の歴史的現実  
○「世界ソビエト社会主義共和国情報部」の萌芽としての「世界革命戦線」、十のテーゼ  
○テルアビブ銃撃戦闘一周年

第4号 不滅の最前線陣型を！ ¥200  
○テルアビブ銃撃戦・5・30行動実行委総括  
○5・30行動へのアピール  
○アラブ赤軍、PFLP日本人医療隊  
○アラブ・パレスチナ革命、アラブ赤軍

各号残部あり、申込先 裏表紙参照 (T ¥60)  
PFLP日本人医療隊  
PFLP国際局  
アラブ赤軍、PFLP日本人医療隊  
アラブ・パレスチナ革命、アラブ赤軍  
△ヨージ・バドモア覚え書 松田政男  
△テルアビブ銃撃戦一周年

## 7・20日航機H・J爆破・11・24KLM機H・J遊撃戦争万才！

世界革命戦線情報センター

日帝は、7・20H・J爆破闘争に対する弾圧をその反動権力をフル

とりわけ、日本帝国主義本国内で敵の熾烈な反革命攻勢と対峙し、苛酷な日常闘争を日々展開し、眞のプロレタリア国際主義の旗のもと、世界プロレタリア独裁へ向けた不退歩の戦争を闘い抜く同志、友人たち！

我々世界革命戦線情報センターは、「赤軍→PFLP・世界戦争宣言」上映隊の諸君とともに、次の如く、プロレタリア国際主義の闘いは、日々勝利しつつあることを報告し確認する！

7・20H・J爆破闘争は、昨年5・30テルアビブ銃撃戦で実践されたプロレタリア国際主義の眞の姿・共同軍事行動の闘争地平を勝利的に貫徹し抜き、米帝→日帝を筆頭とする世界帝国主義者どもの最後の悪アガキが表明する「反革命反動主義」同盟体制を余すところなく暴き出し震え上がるさせたことを！

11・24KLM・H・J闘争は、ミュンヘンオリンピック遊撃戦争以来不斷の闘争として組織されて来たパレスチナ人民の革命戦争の敵。世界帝国主義→シオニズムの陰であやつるヨーロッパ・アラブ領域の「反革命反動性」を思想的にも暴き出した、眞のパレスチナ解放へ向けて闘いであったことを！

回転させ、全世界のTV通信網に対する検閲体制をイスラエル諜報機関（秘密警察）→ICPO→日本官権の指令系列のもとに敷く中で、革命的人民の地下兵站線とその革命性を抹殺すべく今なお策動している。しかし、我が世界革命戦線情報センターの一員が発表した「声明」が明らかにしたように、7・20H・J爆破闘争は「日本赤軍政治犯の奪還」と「日帝が強奪した財産の人々への還元」とを獲得すべく「日本赤軍」と「被占領地の息子たち」によって革命的に闘い抜かれたのだ。共同闘争主体に対する反動デマゴギーの世界的洪水現象にもめげず、この眞実は、「爆破」による闘争貫徹の現実によって、全世界人民の闘魂に深く語りかけられた。全世界の革命的人民大衆は、その眞実を、片時も忘れはしないだろう！

更に、11・24KLM・H・J闘争はエジプト・シリアの攻勢によつてその戦端の火ぶたを切った第4次中東戦争を、あの反革命極まりない米帝・ソ修の思わず通り、全アラブ領域を「新植民地」として分割しておくためのカイライ・アラブ反動諸国との敗北主義による「イスラエル」国家の承認により眞のパレスチナ解放を棚上げして「中東和平」の条件に終息させようとする反革命性を断固粉碎

するための闘いである！

同時に闘争主体「アラブ民族主義青年団」が表明するように、敵イスラエル「国家」への移民の窓口であるギリシア・ニコシア・オランダの反革命性は、「親イスラエル」にあるだけではなく、シオニストの暴力を是認したパレスチナ人民への弾圧を繰り返して来たことにある！これらの反動国家及び反革命性に対する非妥協の闘いとして、勝利的に貫徹されたのである！

全アラブ領域の解放とは何か！パレスチナの眞の解放とは何か

敵・イスラエル——世界シオニズム——世界帝国主義の野望「新植民地主義を打ちくだき、革命的アラブ人民による「アラブ共和国」の建設が、そうである！

全アラブ領域の解放は、イスラエル「国家」によって、世界帝国主義——シオニズム——反動アラブ諸国家が抑圧しているパレスチナとその人民を解放することをおいて他はない！敵・イスラエル「国家」の解体・打倒による、世界帝国主義打倒に勝利する他に、パレスチナとその人民の解放はない！

全ての闘う同志、友人たち！

我々世界革命戦線情報センターは、5・30テルアビブ銃撃戦争以降、7・20HJ爆破闘争から11・24KLM・HJ闘争へと、プロレタリア国際主義の旗のもとに展開して来た世界革命戦争の現実を、更に勝利的に貫徹し抜こうとする全ての革命的人民とともに進むことを、再び宣言する！

☆テルアビブ銃撃戦争岡本戦士即時奪還！

☆7・20HJ爆破闘争貫徹勝利／四戦士の即時最前線復帰！

☆11・24KLM・HJ闘争勝利万才！

☆世界革命戦線の創出を、世界革命戦線協議会へとまざもつて組織し、世界党——世界赤軍・建設の第一歩へ！

☆世界革命戦線の創出を、世界革命戦線協議会へとまざもつて組

I.R.F.I. INFORMATION CENTER

東京都中野郵便局私書箱49号・エンゼルス企画室 Tel(263-6974)